

《年度末を迎え、事故撲滅へ細心の注意を！！》

年度末は、工事を早く完成させたいとの気の焦りや工事の集中により、**ヒューマンエラー**や**設備の不備**などから事故が発生しやすい傾向にあります。

ちょっとした油断や設備の不備などによる事故事例を紹介します。

年度末を迎え、事故撲滅に向けた細心の注意と安全作業に取り組んで下さい。

[事故事例①]

つい足場から墜落！！

◇事故の概要 [ダムゲート塗装工事]

ダム予備ゲートの塗替塗装工事を行うため、吊り足場上でサンドブラスト工法により古い塗装をはがす作業を行っていた。

サンドブラストの廃砂が貯まっていたため、除去しようと作業員が足場に踏み入れたとき、廃砂と作業員の体重により足場が耐えきれずに崩壊し、2.6m下の水面に墜落した。

△事故の原因

- ・足場について、構造および材料に応じて定められた最大積載荷重を超えていた。
- ・足場の計画最大積載荷重 $110\text{kg}/\text{m}^2$ に対し、作業時は $178\text{kg}/\text{m}^2$ であった。

現場状況



墜落場所



廃砂ストック状況



足場崩壊部（床面）

☆事故防止対策（案）

- 構造および材料に応じた足場の最大積載荷重を定めて明示する。
- 人の数や廃砂の量を明示するなど作業員に分かりやすく周知させる。
- 足場・作業床の最大積載荷重等を考慮した作業手順を定め、周知徹底を図る。
- 足場上に廃砂をためずに速やかに除去する。

[明示例]



[事故事例②]

単管足場の隙間から転落！！

◇事故の概要 [堰堤流木止設置工事]

コンクリートの打設準備中、打設シュートを降ろそうとしていた際、バランスを崩して足場板の隙間から3.4m下の地上に転落した。

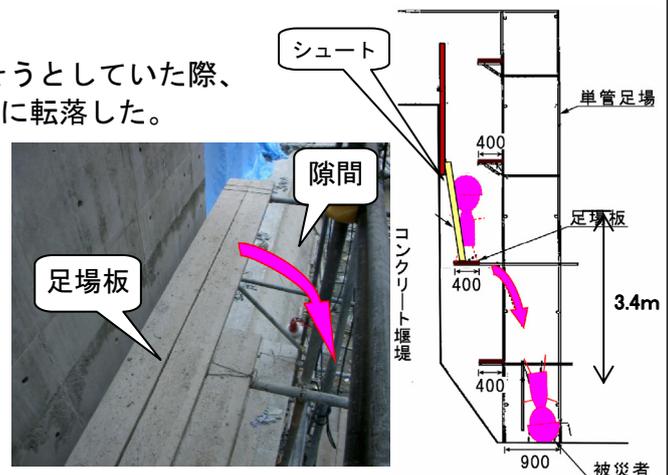
△事故の原因

- ・足場は一部が解体されており、使用してはいけない状態であった。
- ・高所作業にも係わらず、安全帯未装着であった。

☆事故防止対策（案）

- 足場に開口部を設けない。やむを得ず開口部があるときは、使用禁止措置、囲い・手摺りの設置、注意を促す措置等を講ずる。
- 高所で作業を行うときは作業手順を定め、必ず安全帯を使用する。

現場状況



足場板

シュート

隙間

単管足場

足場板

被災者

(裏面につづく)

〔事件事例③〕

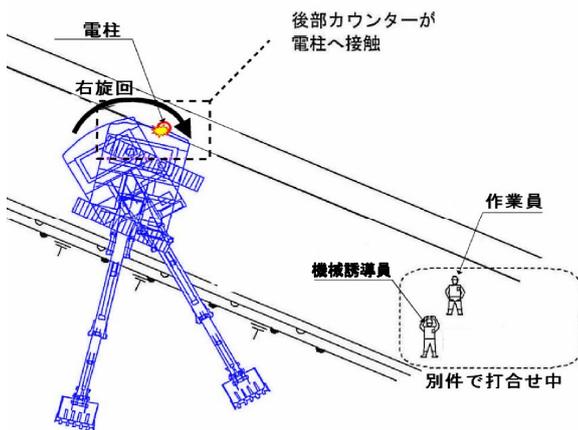
バックホウ旋回時に電柱と接触！！

◇事故の概要 [地滑り対策工事]

バックホウによる基盤整地作業の終了後、バックホウを置き場まで移動させるため旋回を行ったところ、後部のカウンターウエイトが電柱に接触し、破損させた。

△事故の原因

- ・ 整地開始時は接触防止バーを後部に付けていたが、機械誘導員が誘導していることから電柱近くになって外していた。
- ・ 作業が終了したので機械誘導員は別件の打合せのため見張りを怠っていた。
- ・ オペレーターも機械誘導員不在を確認せずに独自の判断で旋回を行った。



現場状況



破損電柱



☆事故防止対策（案）

- 作業状況に応じた作業計画を行い、オペレーターおよび機械誘導員双方の役割・安全確認の方法等について教育を実施し、周知徹底を図る。
- 機械を止めるまでは作業中であるという認識を持ち、気を抜かない。

冬季作業での注意事項！

自然換気が不十分な場所では、内燃機関を有する機械やヒーター等を使用しないこと！

やむを得ず使用する場合には次の措置を講じる。

- ・ 強制換気を行う。
- ・ 一酸化炭素の気中濃度および酸素濃度を継続的に測定する。
- ・ 適切な呼吸用保護具を用意し、必要に応じて使用する。
- ・ 有害性について作業員に周知し、換気等適切な防止対策を取り入れた作業手順を定める。



機械も人も同じ。寒さ対策は万全に！ —車両系機械の冬季対策—

◇燃料タンクの水抜き

- ・ タンク内部の水分が氷結し、パイプを詰まらせることがある。
- ・ 水抜きをこまめに行い、終業時に燃料を満タンにして空気が残らないようにするのも効果的である。

◇外気温にあった燃料・オイル・不凍液の使用

- ・ ディーゼル車の燃料(軽油)は、氷点下8℃位でシャーベット状になり、燃料がうまく供給されないことがある。
- ・ 寒冷地用軽油(3号軽油・特3号軽油)等を使用して燃料の凍結を防ぐ。
- ・ 冬季用オイルの使用。